受賞名：優秀賞
タイトル： あこがれの警察官
氏名： 吉住　柊汰
小学校名：山形県　鶴岡市立朝暘第四小学校　五年

「柊汰、これから仕事に行かなければならなくなったから、お母さんとお姉ちゃんのことたのんだよ。」

これは、昨年大みそかのことだった。災害が発生した現場に、一秒でも早くかけつけるため、お父さんは大急ぎで出かけて行った。夜は、帰って来ることができず、お正月も家族で過ごすことはできなかった。ぼくは、家族みんなでお正月をむかえたかったな、と少しさみしい気持ちになった。でも災害が発生し、困っている人が大勢いる、お父さん達の力を必要としている人たちが大勢いる、と思うと、ぼくはお父さんにさみしいとは言えなかった。

いつも「気をつけて行ってらっしゃい。」と言い、お父さんが何事もなく無事に帰って来てくれることを願い、送り出している。

ぼくのお父さんは警察官だ。お父さんは昼も夜も関係なく、毎日いそがしく働いている。朝はぼくがまだねている時に出かけたり、夜は、みんながねてから帰って来ることもある。時にはとまりのきんむの日もあり、帰って来ない日もある。ぼくはお父さんともっと話したり遊んだり、野球をしたりしたいなと思うが、お父さんは仕事でつかれているから、ねている時は起こさないようにしている。この時も、やっぱりさみしい気持ちになる。でも困っている人たちがいるから、といつも自分に言い聞かせて、ぐっとがまんする。

お父さんは、警察官として、色々な仕事をこなしている。災害現場にかけつけたり、交通い反の取りしまりをしたり、登校中のぼくたちが事故のないように安全に登校できるよう、横だん歩道で見守ってくれることもある。たまに、ぼくの学校の前の横だん歩道に立ってくれる時があり、お父さんを見つけた時は、とてもうれしく、ほこらしい気持ちになる。お父さんは登校中の小学生みんなに、「行ってらっしゃい、気をつけて行くんだよ。」と笑顔でやさしく声をかけて行った。

そんなお父さんを見て、ぼくもお父さんみたいな強くてやさしい警察官になりたい、と思うようになった。

警察官になることは、かんたんなことではないと思う。体力も必要だし、勉強もがんばらないといけない。お父さんに追いつけるように、がんばりたいと思う。そして、いつかお父さんといっしょに事件を解決してみたい。そうだ。今度お父さんが休みの日は、お父さんといっしょにキャッチボールをしよう！たくさんいっしょに遊ぼう。

ぼくのお父さんは、自まんのお父さんでもあり、ぼくのあこがれの警察官だ。